

共同助成(山形県遊技業協同組合)

「子育て応援団 すこやか2017」事業

地域社会全体で子育てを支援する機運を盛り上げる 参加型の子育て応援イベントを開催

「子育て応援団」は、少子化が進む山形県で社会全体で子育てをサポートしようという取り組みだ。毎年、親子で楽しみながら様々な子育て情報が得られる、子育て応援イベントを開催している。2007年にスタートして11回目となるこの取り組みは広く県民に定着しており、昨年は過去最高の来場者を記録した。



「子育て応援団 すこやか2017」を告知するチラシ



来場者は過去最高の2万6,131人を記録

障がいのある子どもと親が参加できる 子育て応援イベントを実現

子育て応援団実行委員会は、山形放送と山形新聞を中心に山形県(子育て支援課)や山形市(こども保育課)、医師会、歯科医師会、薬剤師会などで組織され、毎年、山形国際交流プラザを会場に「子育て応援団 すこやか」イベントを開催している。ステージイベントのほか、小児科医や歯科医、助産師による無料の健康相談、先輩ママによる育児アドバイス、自治体や団体による取り組みや企業の子育て支援商品の紹介、保育士を目指す地元の短大生による手作り遊具の遊び場など、多彩なコンテンツで構成され、年に一度、親子で参加して様々な子育て情報が得られる場となっている。

11回目となる「子育て応援団 すこやか2017」は、6月24～25日に開催された。母親たちにも大人気の「うたのお

にいさん」横山だいすけさんのコンサートや、アンパンマンのショーなどもあり、2日間の来場者は過去最高の2万6,131人を記録した。さらに今回は従来のコンテンツに加えて、障がいのある子どもたちも一緒に参加して地域の伝統芸能を体験するワークショップが開催され、イベント初となるこの取り組みにAJOSCの助成が活用された。実行委員会の山形放送の大久保円さんは、「子育て応援団の取り組みとして新たな一歩を踏み出した」と話す。

「若い親たちの育児支援に加えて、障がいを持つ子どもや親にも参加してもらおうという、これまでできなかった取り組みを実現することができました。地域の伝統文化に触れながら障がいのある子どもたちと交流する機会をつくれたことは、これからの時代を見据えて心温かい子どもを育もうえで意義のある取り組みになったと思います」

地域伝統の花笠踊り体験を通して 広がる交流の輪

伝統芸能の体験ワークショップには、山形市・県肢体不自由児者父母の会の協力を得て呼びかけた50人が参加し、障がいのある子どももいない子どもと一緒に山形伝統の花笠踊りと和太鼓を体験した。指導にあたった日本舞踊家の花柳優美津さんたちは、車イスの子どもや重い障がいのある子どもも参加できるように踊り方や小道具を工夫し、スタッフも優しく寄り添いながら、みんなで一緒に踊る楽しさを共有した。また、会場内には障がいのある人たちの自立を支援する団体のブースが設けられ、バザーを実施した。

イベント会場で毎回行っている出口アンケートでは、障がいのある子どもを持つ母親からこんな声が寄せられたという。「子育て応援団はこれまで私たちには関係のないイベントだと思っていましたが、私たちも参加できるんですね」「障がいを持つ子どもにはいつもつきっきりです。でもここでは少しだけ距離をおいて自分の子どもを見守る機会をいただきました」。参加者のこうした声や表情に触れ、思い

を新たにしたという大久保さん。

「今回のイベントは、心の優しさや思いやりの大切さを感じる貴重な機会となりました。これは、障がいの有無に関わらず誰もが暮らしやすい社会をつくろうというユニバーサルデザインの考え方の第一歩だと思います。今後もこの取り組みはぜひ続けていきたいです」

このイベントの様子は山形放送のテレビやラジオ、山形新聞の紙面で紹介された。子どもたちが交流する様子は、分け隔てなく子どもを社会全体で見守っていこうというメッセージとして、広く県民の心に届けられた。

山形県遊技業協同組合より

障がいのある子どもたちが参加した伝統芸能ワークショップや障がい者の社会参加を支援する団体のバザー出店などに賛同し助成しました。今後も子どもたちの交流体験を通して、優しさや思いやりを育ててほしいと思います。



多数の子どもたちが参加した伝統芸能の体験ワークショップ



2017年7月26日付けの山形新聞に掲載された採録記事

助成団体: 子育て応援団実行委員会



誰もが安心して子育てができる社会を目指して

子どもは未来への大きな期待そのものです。活動11年目にあたり、私どもの取り組みに深い理解と極めて大切な助成をいただき、心より感謝いたします。おかげさまで、障がいを持つ子どもと親御さんにも参加していただき、イベントとして新たなメッセージを発信することができました。今回の成果を踏まえ、次年度も同様の取り組みを続けてまいります。

山形放送 営業局 営業戦略部
統括部長 大久保 円さん